

# 本郷先生の思いで

服部 力

私と家内のいわゆる「お付き合い期間」は相当に長く、それは当時の関西の菌類関係者の間では周知の事実でした。

こういった話題には目のない本郷先生も勿論ご存知で、ことあるごとに、「服部君と稲葉さんの結婚式の仲人は、私がやりますワ。やらせて下さい。」との有り難いお言葉をいただいていた。

結婚が決まり、もちろん私たちは先生のお宅にお仲人のお願いにあがりました。先生の奥様は、「何ゆうてんの。こんな、オジイちゃんにゆわんでも、もっとエエ人、いっぱいいいはるやろうに。」とおっしゃったのですが、先生は二つ返事で引き受けて下さりました。

披露宴に向けて、私たちの作戦は万全に思われました。司会には、経験の豊かな佐野修治さんに。スピーチは間違えてもおかしなことを口走ったりしなさそうな方々を厳選。酔っぱらっての粗相が心配される幼菌の会長などはエライ先生と同じテーブルに配置し、封印しました。

計算間違えはただ一つ。そう、先生は暗くなると3分もたたないうちに居眠りをはじめられることを、すっかり忘れていたのでした。披露宴会場が薄暗くなる度に、先生のお体は舟を漕ぎ始めます。こんな面白いことは、30年間はネタに使われてしまいます。

あわてて、そのころ盛んに訪れていたマレーシアのきのこに関する話題を振りました。すると先生はしゃきっと元に戻り、しきりに質問を重ねられました。

薄暗い披露宴会場にて仲人と新郎の間で交わされた会話。それは、処世訓でも夫婦円満の術でもなく、東南アジアの *Amanita hemibapha*



千葉菌類談話会の野外観察会・房総風土記の丘で  
1991.9.28.

subsp. *javanica* はやっぱり日本のキタマゴタケとは別種ですよ、とか、マレーシアにあるオレンジの変色性イグチはなんでしょう、とか、そういう話題だったのでした。

ここしばらく、先生のお体の調子が優れないことを存じ上げていながら、先生のお見舞いに参ずる機会をすっかり失ってしまいました。

先生の突然の訃報に触れ、ちょうどその前日より日本菌学会の庶務理事を仰せつけられた私は、学会長の代理として弔辞を読むことになりました。

最後の最後にお会いできた先生は、随分とやせておられました。でも安らかな顔をされていました。本当に僥倖なのですが、先生が大切に育まれた、キノコを合い言葉に集った数多くのコミュニティーを託されたような気がしました。巨大な先生の前には、まだまだ微力ではありますが、自分に何ができそうなのか、少し、考えました。

先生のご冥福をお祈りいたします。